

教育支援部だより

自傷・他害行為について、その背景や支援について考えてみたいと思います。

自傷・他害行為とは

「自傷行為」とは、自分で自分を傷付ける行為のこと、「他害行為」とは、他人や器物を傷付ける行為のことをいいます。さまざまなケースや要因がありますが、ここでは、知的障害や自閉症に関連して起きる自傷・他害行為について考えてみたいと思います。

◎自傷行為の例

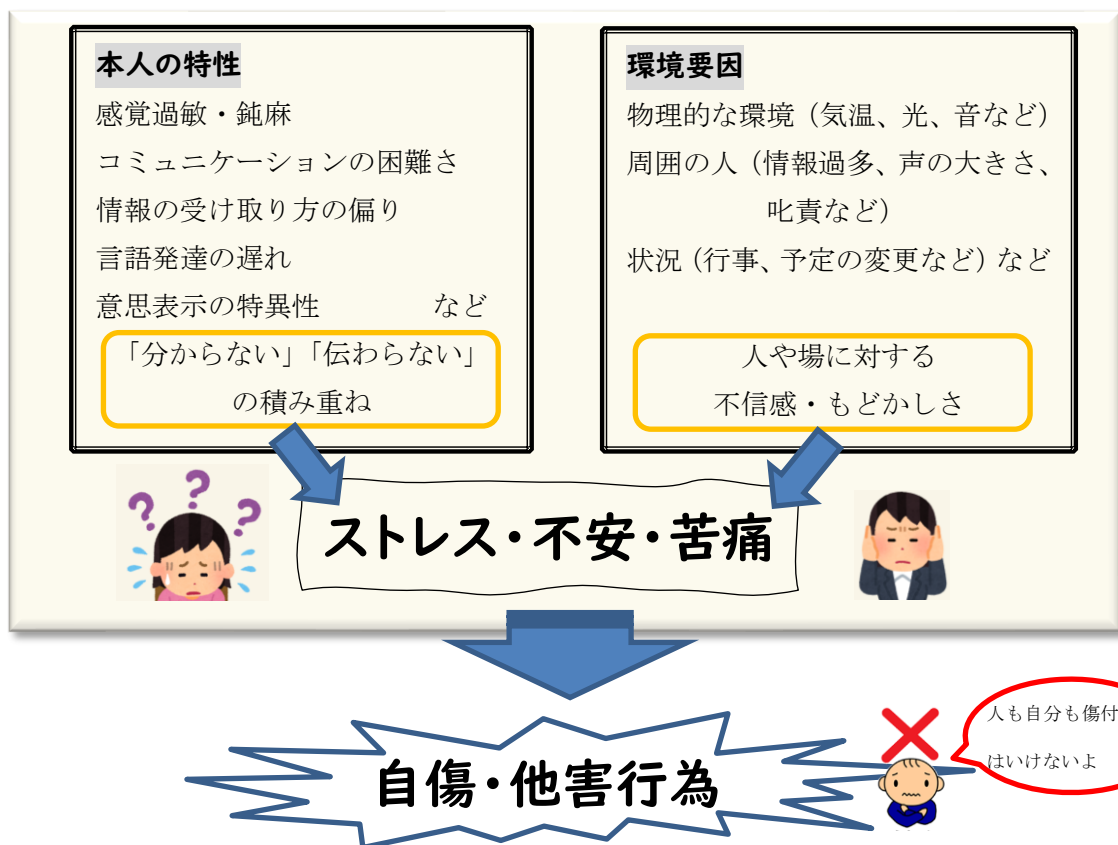
- ・自分の頭や顔、手足などをたたく
- ・自分をかむ
- ・壁や地面に頭を打ち付ける
- ・髪の毛を引っ張る、むしり取る
- ・爪をかんだり剥がしたりする
- ・目に指を入れる
- ・物で自分をたたき、尖ったもので刺すなど

◎他害行為の例

- ・他人をたたく
 - ・他人にかみつく
 - ・他人の髪を引っ張る
 - ・つばを吐く
 - ・物を投げる
 - ・物を壊す
- など

なぜ自傷・他害行為をしてしまうの？

本人の特性と環境要因の相互作用の結果として引き起こされます。分からないことや不快なことばかりの状況の中で、「こうしてほしい」と伝えることもできない「もどかしさ」を自傷や他害行為で表出しているのです。



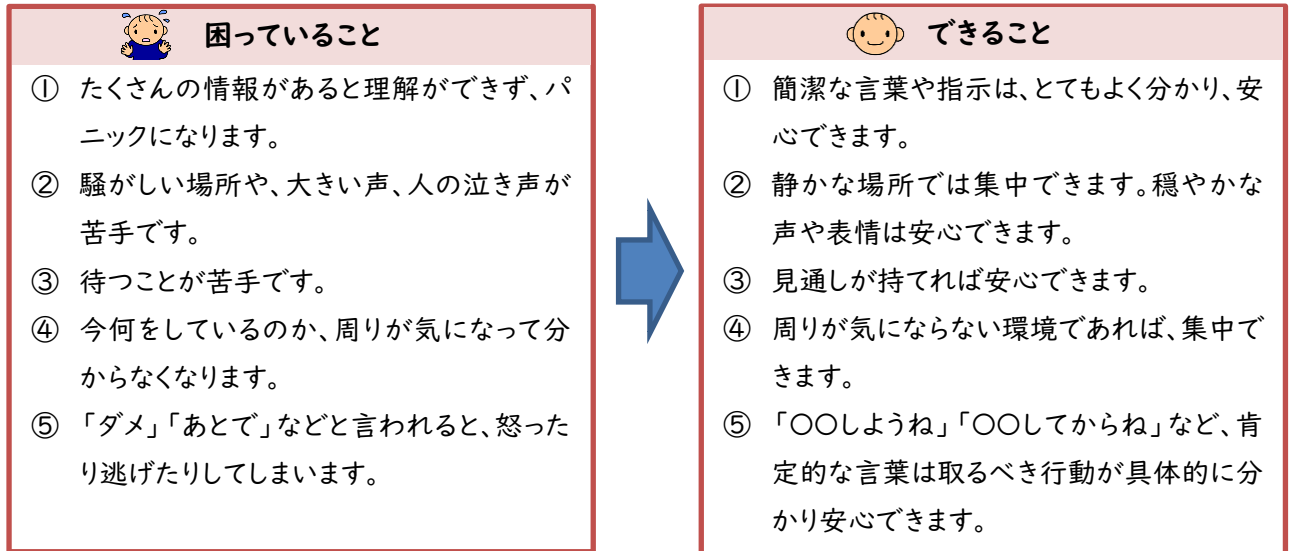


自傷・他害行為への支援について

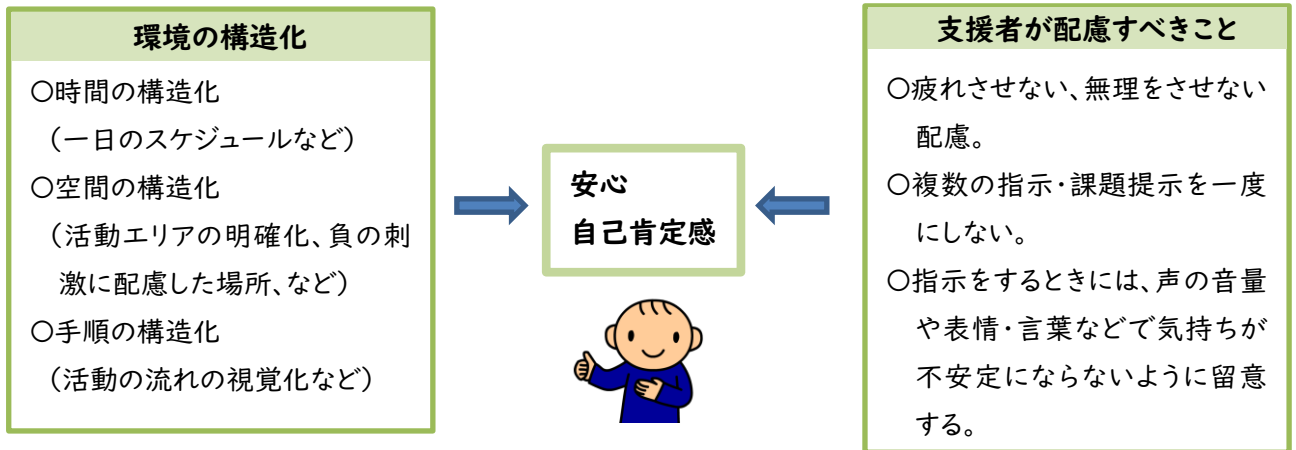
1 自傷・他害行為の背景（アセスメント）

行動障害の要因を探るとともに、本人のきめ細かな分析を行います。
肯定的に分析することが大切です。

◎アセスメントの例 「困っていること」を「できること」に置き換えることで、支援のヒントが見えてきます。



2 自傷・他害行為の具体的支援



支援で重要なのは、**チーム**として、**統一した対応を継続する**ことです。



子どもの支援の仕方にも正解はありません。また、子どもの状況も一定ではありません。変化していく子どもの状況を常に情報共有していくことが大切です。支援者は一人で頑張らず、周りの支援者に相談しながら、皆で子どもを支援していけるといいですね。

参考・引用文献

- 「自傷・他害・パニックは防げますか？」花風社 廣木道心・栗本啓司・榎本澄雄
- 「ストーリーでわかる特別支援教育の実践」学研 川上康則
- 「家庭で無理なく対応できる困った行動Q&A」学研プラス 井上雅彦